平成２０年度夢づくり協働推進事業の実施状況　１４

事　業　名

中山間ＳＵＮ・山プロジェクト

事業の概要

「支援される障害者から、地域を支援する側に」と発想転換し、中山間地域の生活の困り感を障害者の就労ニーズに変える地域協働推進事業を行う。障害者と高齢者がともに支え合う中山間のユニバーサルな協働共存のあり方に取り組んだ。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
・新見市自立支援協議会の障害者支援ネットワーク構成団体（２５団体）等 ・ＮＰＯ法人１００万回のサアーたいへん ・県民局（健康福祉部）	事業企画・立案 事業実施に向けた意見交換・情報交換 事業実施

実 施 状 況

１　先進地視察　「ＮＰＯ法人てっちりこ」の見学

（１）日　時：平成２０年１２月３日（水）

（２）参加者：ハートフル・あしん、風の音、健康の森、１００万回のサアーたいへん
新見障害児者と共に歩む会、、新見市　他　　計６０人

（３）内　容

「ＮＰＯ法人てっちりこ」の概要説明を受けた後、姫唐辛子藁綯（わらない）の見学、精神障害作業所「ふきのとう」との交流会を開催するとともに奥津道の駅において、てっちりこ製品の販売を見学した。

交流研修会

姫唐辛子藁綯風景

２　日本一親子孫水車「ゆめすき公園交流会」の開催

（１）日　時：平成２１年２月１５日（日）

（２）参加者：ＮＰＯ法人１００万回のサアーたいへん、ＮＰＯ法人ハートフル・あしん
ＮＰＯ法人風の音、健康の森学園、新見障害児者と共に歩む会、新見市連合婦人会、新見市栄養改善協議会、地域長寿会、新見市　他　計１５０人

（３）内　容

現在、夢すき公園「親子孫水車」が十分管理されていない状態となっていることから、地元住民、福祉関係者、障害当事者等が協働して、交流会を開催した。

今後は、関係者が協働して公園の管理等をめざす契機となった。

新見市長を迎え交流会開催

地域の児童と障害者のそば打ち体験交流

成果・効果

１　障害者支援団体、親の会、事業者が協働で新見の障がい者の将来について真剣に議論した。その結果、定期的な協働ミーティングの場ができた。

２　障害者の将来に参考になる先進地域の情報を協働で集めた。地域で初めて自発的に協働し資料分析、見学を通して計画の立案から実施に至った。

３　「てっちりこ」見学により、お互いの長所短所が鮮明となった。今回、視察した「てっちりこ」の所在地同様、新見市は、県北の中山間地域であり、温泉、ダム、特産品の宝庫等、共通点が多数あり、地域の人と障害者との相互理解、仕事や協働する交流の場所の確保等が課題となった。

４　地域の眠っている社会資源（神郷親子孫水車）の再生プロジェクトに向け取組が始まった。